

楽しかった連休が終り本格的な自発的な生活がはじまりました。
年長児と年中児たちは当然、これ迄の課題の他に新しい課題に向かって意欲
をもって取り組みはじめました。又、年少児たちとつぼみのおとせだちにとっても
これからの生活は変化に富み、刺激のある生活になります。体調を整えて
あげてお休みをしないで色々体験しましょう。

■毎日15分から20分の時間ですが、机に

向かいドリルの時間があります。読みは「あ」から「ん」まで読めるように書きは直線の「一」「三」「三」「十」へと進み、直線

の多いカタカナを習得しながら筆圧も身につけます。やがて曲線の多いひらがなへ進み、作ら絵本の読みへと進みます。

短い時間ですが集中力と大きな実りが期待できます。

ひとりひとは自分のレベルを目ざしますので、温かく見守ってください。

年中児と年長児たちと読み書き計算へとレベルをあげていきます。

■すでに年長組のハーモニカがはじまって

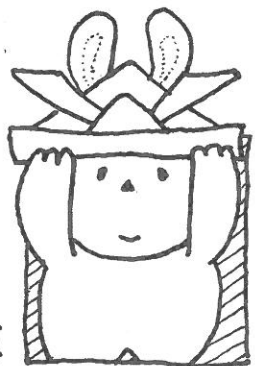
あります。小さな楽器で、とてもむずかしい楽器です。47年間に亘り実践して

あります。数ミリ口を移動するだけで音が変わります。小さなコンピュータを10回転させて音を探ります。ド〜ラドド〜ミドと正確な一往復が出来たら8割完成。

途中に吸う音もあるので集中力

も必要です。こんなむずかしい楽器には教師の話も「聞く力」が絶対条件です。そして、「やる気」と言う

意欲が次の条件です。これ迄の3年間と2年間で培ってきております。



心の育ち シリーズ がまんができる子に

赤ちゃんが生まれました。
何色にも染まっていない純白の赤ちゃんです。
これからどんな子に育てるのか、どんな色に染めるのか、それはお父さんとお母さんの育て方にかかっています。

こんな子に育てたい！ あんな子に育てよう！ と二人で色々話し合う事でしょう。

ここで大切な事は、二人で想いがかける子供像ではなく、その姿を支える力と言いか能力の事に関心を持って頂きたいと言う事です。この力は、この幼児期に育てるのが旬であって、これを外すと苦勞が待っています。

「がまんができる子」と言うのはその子にとってすばらしい能力を持っていると言事なのです。勿論、がまんが必要な時にがまんできるという力です。

これは、その子の芯の力と言えるでしょう。その子の「根っこ」です。この力は、家庭の力でしっかりと育てる事は出来ます。しかし、近年は家庭の教育力の低下が言われております。私たちは、集団生活をとおして、その力を育てるお手伝いを致します。